



第34回日本臨床整形外科学会学術集会 トキめき学会・新潟

共催セミナー 4 (SS4)

日時 2021年 **10月11日** (月) 18:50~20:00

形式 **Web配信 (Live配信)**

事前参加登録制

今できる変形性膝関節症の 病態に則した治療選択の実際

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科 機能再建医学講座 整形外科学分野

教授 **川島 寛之 先生**

演者 順天堂大学大学院医学研究科 整形外科・運動器医学

主任教授 **石島 旨章 先生**

日本整形外科学会教育研修単位

本セミナーでは下記のいずれか1単位を取得できます。

○専門医資格継続単位分野 (N)

必須分野 [1] 整形外科基礎科学、[12] 膝・足関節・足疾患

単位取得方法

●以下のフローで取得できます。

1. 学術集会ホームページから参加登録を行う。
2. 教育研修単位受講申し込みを行う (1単位1,000円の事務手数料が必要)。
3. ログインを行う。
4. 講演を最後まで視聴する。
5. 設問に解答する (正解するまで繰り返し解答可能)。

●放映日時を定め1回のみでの放映となります。

今できる変形性膝関節症の 病態に則した治療選択の実際

順天堂大学大学院医学研究科 整形外科・運動器医学

主任教授 **石島 旨章 先生**

近年、ロコモティブシンドローム（ロコモ）として、加齢に伴い高まる運動器疾患による移動機能低下に対する認識を高めることとその対策が重要となっている。高齢者のロコモを招く原因となる疾患は限られており、変形性膝関節症（膝OA）はその代表的疾患の一つである。膝OAは、80歳以上の女性の有病率は80%にも及ぶなど、極めて高い有病率を示す疾患であることも近年明らかとなっている。しかし、現時点では膝OAに対する疾患修飾型治療法は存在しない。そこで、21世紀に入ったころから膝OAへの関心が世界的に高まっている。特に、「早期」膝OAという概念が生まれ、病態解明についての研究が進んでいる。

いかなる疾患においても、治療の原則は「病態に則した治療」である。特に膝OAは、上記の如く、極めて有病率の高い疾患であることから、病態に則した治療法の確立は喫緊の課題である。

本講演では、現時点でできる膝OAの「病態に則した治療」の実際について、自験例を交えながら考えてみたい。